# 言語聴覚学科（Speech-Language-Hearing therapy）

**ディプロマ・ポリシー（卒業までに身につけるべき能力）**

①言語聴覚士としての職業倫理をもち、対象者やその家族と真摯に向き合うことのできる人材を育成する。
②言語聴覚士として必要な知識・技能を習得しようとする探究心や、自ら問題を解決しようとする積極性を育てる。
③科学的根拠にもとづいたリハビリテーションを提供できる人材を育成する。
④リハビリテーション専門職の役割を理解し、目標に向かってチームで協力し合える人材を育成する。

| | 講義 | | 実習 |
|---|---|---|---|
| 2学年 | 到達目標 | ①対象者やその家族と真摯に向き合うことができる。<br>②自己の問題点に対し、改善に向けて努力することができる。<br>③対象者に関する情報を取捨選択し、生活上の問題点とその原因について仮説を立てることができる。<br>④リハビリテーション専門職種の役割を理解し、情報を共有することで対象者の問題を幅広く捉えることができる。 | |
| | ***専門基礎分野*：**<br>［心理学］心理測定法<br>［社会福祉教育］社会保障制度・関係法規<br>［専門基礎分野特論］Ⅰ基礎医学／Ⅱ臨床医学／Ⅲ音声言語聴覚医学／Ⅳ心理学<br>Ⅴ言語学／Ⅵ音声学／Ⅶ音響学／Ⅷ社会福祉・教育<br>***専門分野*：**<br>［失語・高次脳機能障害学］Ⅳ訓練／Ⅴケーススタディー<br>［言語発達障害学］Ⅷケーススタディー<br>［発声発語・嚥下障害学］Ⅳ成人系発話障害／Ⅵ摂食嚥下障害／Ⅶ音声障害<br>Ⅷ流暢性障害／Ⅸケーススタディー<br>［聴覚障害学］Ⅳ小児聴覚障害／Ⅴ補聴器・人工内耳／Ⅵ視覚聴覚二重障害<br>［専門分野特論］Ⅰ言語聴覚障害学総論／Ⅱ失語症学／Ⅲ高次脳機能障害学<br>Ⅳ言語発達障害学／Ⅴ発声発語障害学／Ⅵ摂食嚥下障害学<br>Ⅶ聴覚障害学 | | **臨床実習Ⅱ【12 週間】**<br>実際に対象者についての情報収集および評価をし、対象者に即した基本的な言語聴覚療法を学びます。 |
| 1学年 | 到達目標 | ①対象者と良好な関係を築くために必要なコミュニケーション態度・技術を身につける。<br>②自己の問題点を客観的に認識できる。<br>③言語聴覚士が対象とする基本的な疾患・障害について理解する。 | |
| | ***専門基礎分野*：**<br>［基礎医学］医学総論／生理学／病理学／解剖学<br>［臨床医学］耳鼻咽喉科学／内科学／小児科学／形成外科学／臨床神経学<br>精神医学／リハビリテーション医学／臨床歯科医学・口腔外科学<br>［音声・言語・聴覚医学］呼吸発声発語系／聴覚系／神経系<br>［心理学］認知・学習心理学／生涯発達心理学／臨床心理学／心理統計法<br>［音声・言語学］言語発達学／言語学／音声学／音響学／聴覚心理学<br>［社会福祉教育］リハビリテーション概論（PT・OT 概論含む）<br><br>***専門分野*：**<br>［言語聴覚障害総論］言語聴覚障害学概論／言語聴覚診断学<br>コミュニケーション技能演習<br>コミュニケーション障害演習／言語聴覚障害学演習<br>［失語・高次脳機能障害学］Ⅰ概論／Ⅱ失語・高次脳機能障害／Ⅲ評価<br>［言語発達障害学］Ⅰ概論／Ⅱ自閉症スペクトラム障害／Ⅲ知的発達障害<br>Ⅳ限局性学習障害／Ⅴ脳性麻痺・小児嚥下／Ⅵ検査・評価<br>Ⅶケーススタディー<br>［発声発語・嚥下障害学］Ⅰ概論／Ⅱ小児系発話障害／Ⅲ成人系発話障害<br>Ⅴ摂食嚥下障害<br>［聴覚障害学］Ⅰ概論／Ⅱ成人聴覚障害／Ⅲ小児聴覚障害 | | **【コミュニケーション技能演習実習／5 日間】**<br>医療・福祉施設での介護や、リハビリテーション場面の見学などを行い、対象者との接し方を学びます。<br><br>**【コミュニケーション障害演習実習／5 日間】**<br>言語聴覚士の業務の実際を学びます。<br><br>**【臨床実習Ⅰ／15 日間】**<br>対象者の全体像ならびに生活機能と障害のとらえ方を学びます。（対象者に対して言語聴覚療法評価を行い、生活機能と障害を整理し治療目標を立案） |